

## 研究課題名

回復期リハビリテーション病棟の大腿骨近位部骨折患者における入院中の栄養改善有無が実績指数に及ぼす影響について

### 1. 研究の実施体制

研究責任者：田中秀明<sup>1)</sup>

研究実施者：前田莉沙<sup>1)</sup>

共同研究者：小蔵要司<sup>2)</sup>、畑中聡子<sup>2)</sup>、松本康嗣<sup>1)</sup>、井舟正秀<sup>1)</sup>、田中秀明<sup>1)</sup>  
平井文彦<sup>3)</sup>、川北慎一郎<sup>3)</sup>

1) 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 リハビリテーション部 理学療法課

2) 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 臨床栄養課

3) 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 リハビリテーション科

### 2. 研究の概要

(目的)

本研究は、当院の回復期リハ病棟の大腿骨近位部骨折患者において、入院中の栄養状態改善の有無が実績指数にどの程度影響を及ぼすかを明らかにすることも目的とする。

(対象)

対象は平成 28 年 1 月から平成 30 年 7 月に当院回復期リハ病棟に入棟し、入棟時に低栄養を認めた大腿骨近位部骨折患者とする。

(方法)

- ・ 研究の種類・デザイン：後ろ向きコホート研究
- ・ 研究・調査項目：対象者について、下記の臨床情報を電子カルテより取得する。
  - 年齢、性別、骨折型、術式、Mini Nutritional Assessment-Short Form (MNA-SF)、脳血管疾患既往の有無、入院前介護保険の有無、入棟時 Functional Independence Measure (FIM) の運動・認知項目、退院時 FIM の運動・認知項目、実績指数、在棟日数
- ・ 目標サンプル数：34 例 (改善群 11 例、非改善群 23 例)
- ・ 統計解析の方法
  - 栄養改善群および非改善群の 2 群間の比較において、カイ二乗検定、Mann-Whitney U 検定を使用した。共変量は年齢、性別、病型、術式、脳血管疾患既往の有無、入院前介護保険の有無、回復期リハ病棟入棟までの日数、入棟時 Functional Independence Measure (以下 FIM) の運動項目とし、傾向スコアで調整し多変量解析で分析する。

(研究期間)

調査対象期間：2016 年 4 月から 2019 年 3 月まで

3. 個人情報等の取り扱い

研究に携わる者は、個人情報の取扱いに関して、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「個人情報の保護に関する法律」および適用される法令、条例等を遵守する。調査により得られた情報を取扱う際は、研究対象者の秘密保護に十分配慮し、自施設外に個人を識別することができる情報の持ち出しは行わない。本研究結果が公表される場合にも、研究対象者個人を特定できる情報を含まないこととする。

4. 研究対象者の費用負担、謝礼

研究に参加することによる研究対象者の費用負担や謝礼は発生しない。

5. 研究結果の公表

研究者は、本研究の成果を関連する学会や医学雑誌において発表することにより公表する。

6. 研究資金および利益相反

本研究は、研究資金を用いない。また利益相反もない。

7. 研究対象者およびその関係者からの相談等への対応

研究対象者やその関係者からの相談窓口は、研究責任者とする。ただし実際の相談に際しては、恵寿総合病院総合受付患者相談窓口を通して行って頂くこととし、連絡先を公開文書に記載する。